

多摩センターのさらなる活性化に向けた取り組み方針

1. 多摩センター地区の現状や位置づけ

- ◆街の位置づけ 多摩ニュータウンの中心、交通の結節点、商業・業務・文化・アミューズメント等の機能集積、知的人材や大学の立地に着目した教育・文化・情報等の機能集積
⇒「業務核都市基本構想」などに共通する骨格部分の考え方
- ◆企業立地の動向 多摩センター駅周辺で、H12以降に26件・約25.8万㎡の未利用地を処分 ⇒ 概ね達成
- ◆商業の動向 H20のクロスガーデン多摩の開設で面積・売上げとともに増加しているが、これを除くと横ばいから微減
三越多摩センター店の営業終了(H29.3)

3. 多摩センター地区でさらなる展開が必要な理由と背景

- ◆人口減少と都心回帰。多摩ニュータウン初期入居から50年近く経過し、都市基盤の劣化や人口の高齢化が顕在化。
- ◆多摩センター地区の衰退は市全体に大きな影響を及ぼす。商業や業務機能等の維持・発展が重要な課題。
- ◆街全体を大きくリニューアルをしていくには長い時間と多大な労力。2025年問題を見据えた中、先送りできる時間的余裕はない。
- ◆4年後のオリンピック・パラリンピック東京大会を契機に、課題対応のための事業展開（ハード面・ソフト面）の時期としても好機。
- ◆パルテノン多摩は30年目の大規模改修時期。課題解決や新たな取り組みを始める好機。

多摩センター地区の魅力を高め、滞在や回遊ができる施設（商業・娯楽など）の進出を促進させるために行政ができる「具体的な取り組み」は何か？ 取り組みのアイデアを出す。
※パルテノン多摩や多摩中央公園、図書館本館、ペDESTリアンデッキなど各施設や都市基盤の改修・整備との整合を図り、事業間連携で横断的に取り組む

4. 多摩センター地区で今後必要な具体的な取り組み

多摩センターの特長を活かした“目指す6つの街の姿”と具体的な取り組みのイメージ

1. ハローキティにあえるまち（にぎわい・非日常）

多摩センター全体がハローキティと仲間たちの街を感じるエンターテイメントな演出がされ、四季折々のイベントや賑わいで市民や来街者が飲食や買い物、出会いを楽しめる街となっている。

⇒ マルシェの定期開催、キッチンカーによる飲食販売、オープンカフェ・・・

2. みどりを楽しむまち（水と緑・回遊）

多摩センターの中央に広がる緑豊かな大型公園。園内に広がる芝生広場や大池を中心に小道が整備され、周辺の公共施設を回遊することで、自然を感じながら遊んだりのんびり憩える街となっている。

⇒ 多摩中央公園とパルテノン多摩の一体的な活用、エリアマネジメントのしくみ・・・

3. きれいで安全なまち（居心地のよさ）

落書きやごみのポイ捨て、客引き行為などがなく、ベビーカーや車椅子を利用する方も移動しやすいバリアフリーの街が続き、街中を安心して過ごすことができる街となっている。

⇒ 駅前通路の風除板のリニューアル・・・

2. 多摩センター活性化での取り組み実績と成果

- ◆観光・賑わい ハローキティにあえる街事業（ハード・ソフト）⇒ ハローキティストリート、親善大使、グリーティング
多摩センター地区連絡協議会によるイベント ⇒ こどもまつり・夏まつり・ハロウィン・イルミネーション〈年間340万人〉
- ◆商業・業務の集積 企業進出（ミツミ・JUKI...） アミューズメント（現イオンシネマ・極楽湯...）
文化芸術（多摩美大美術館・桜美林アカデミー...）
商業・飲食（ココリア多摩センター・落合横丁・スポーツオーソリティ・クロスガーデン・京王SC...）
- ◆住機能の許容 地区内9箇所（約2,000戸）のマンション建設、それに伴う世帯・人口増（若い世代の転入・担税力の上昇などの成果）
- ◆その他波及効果 フィルムコミッションによる魅力発信（地区周辺ロケ実績の拡大）
民間企業による連携（キティ&しまじろう・京王多摩センター駅装飾など）

※実績と成果をまとめると、当時目指した機能導入等は概ね達成し、さらに順次新たな取り組みを展開

★活性化のイメージを定義（共通の認識）

地区内の様々な施設やスポットに多くの人が集まり、滞在・回遊しながら思い思いの時間を楽しんでいる。また、それぞれが主役として活動する中で、新たな出会いや発見、または相互の交流が生まれ、街と人が一体となって、日常的に活気と賑わいであふれている状態。

住機能許容（定住促進）
企業誘致（雇用創出）

⇒ 住間人口の増加

さらなる展開としての「街の活性化」＝「賑わいの創出」

5. 具体的な取り組みに向け見えてきた課題

- ① 街の活性化を図るために、民間企業や市民、団体、大学等の連携と協力の中で相乗効果が発揮されるしくみを考える必要がある。
- ② 複数の取り組みをまとめ、一体的な管理と運営ができるしくみを考える必要がある。
- ③ 活性化に向けた取り組みは、事業者からの提案を求めるしくみを考える必要がある。

平成29年度の課題
（推進体制と年次計画）